

□ずいそう□

「第九」と

神戸

外山雄三

年末の、やたらにさわがしい「ジングル・ベル」が鳴り渡る頃になると、日本中どこへ行っても「第九」「ダイク」とレコード会社もオーケストラも、プロ、アマを問わぬ各種合唱団も、まるでモノノケにでもとりつかれたようになる。この有様を見たらベートーヴェン先生もさぞやびっくりするであろうが、どういうわけで12月と「第九」がかくも密接に結びついてしまったのか、どう考えても理由らしいものは見当らない。ベルリン・フィルは毎年12月に「第九」をやっているという説もある。しかし「だから……」ということでもなさそうだし、第一、ヨーロッパの他の町で、一年に一度「第九」を演奏する所などほとんどあるまい。演奏する側にも聴き手にとっても、それほどの大曲であり難曲であるこの名作が、まるで大晦日のはやり歌のショーのように「これをきかないと一年が終った気がしない」というすさまじい流行になってしまったのはおそろしくもありおかしくもあり、面白い。

神戸はもともと、すばらしい合唱団がそろって



いることで知られていた。いろいろな合唱コンクールの第一位を神戸だけで独占した年も何度かあるのではないか。それに、長く輝かしい伝統を誇る神戸女学院の充実した音楽教育も有名である。この女学院の合唱団といくつかのすぐれた合唱団をむすび合わせて神戸ならではの「日本最高の」第九をやろう、という非凡な着想は、音楽通というより芸術全般に深い見識を持っておられた国際会館のK常務のプランであった。何回かこの「日本最高」を指揮させて頂いた者としては正真正銘、日本で考え得るもっとも美しく、洗練されたひびきの合唱で「第九」を上演出来たよろこびを多分忘れることはあるまい。K氏が常務の席を退かれた現在でも、どうやらこれが年中行事として定着したらしいのはうれしい。

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団は同時にウィーン国立歌劇場管弦楽団でもあって、音楽家たちはその「歌劇場管弦楽団員」として月給をもたらっていて、シンフォニーオーケストラとしての演奏活動は、彼らの言葉によれば「道楽で」やっ

ているのだということは案外知られていない。そして、その「道楽」の方のオーケストラの運営は（世界でここだけだと思われるが）楽団員たち自身による完全な自主運営という、すばらしい形をとっている。だから、オーストリー政府と衝突してウィーンを去ったカラヤンを再び指揮台に迎えるかどうかの話しあいがあるが、楽団全員が半々に分れて灰皿をぶつけあう大激論に発展したりもする。

ウィーン音楽といえはちょっとリズムになまりのあるウインナ・ワルツとポルカがその代表ということになるが、その演奏はウィーンでも、このウィーン・フィルだけが「本物」だと、よくウィーン児たちが言う。そしてオーケストラも、大指揮者クレメンス・クラウス以後は、滅多なことではウィーン生れでない指揮者にワルツやポルカを指揮させない。そして、この誇り高いオーケストラ界の名門が年に一度だけ、趣好をこらしてワルツやポルカや、ギャロップやマーチばかりの、いわばウィーン音楽の粹を集めてたっぷり楽しませてくれるのが、レコードでもおなじみの「ニューイヤール・コンサート」だが、実は正確にいうと、大晦日の夜八時開演のシルヴェスター・コンツェルト（日本語にすると大晦日音楽会とでもいおうか）と元日午前十一時開演のノイヤールス・コンツェルト（ニューイヤール・コンサート）が同じプログラムで、これを聴くためにヨーロッパ各地からファンが集って来るので、ウィーンにいても余程の幸運か、特別なツテでもない限り切符はほとんど手に入らない。指揮台にはクレメンス・クラウス没後ずっと、ヴァイオリンを手にしたコンサート・マスターのボシニコフスキーが上ることに

なっているのは既に知られたとおりだが、一九六十年前後の、このオーケストラとカラヤンが最も密接な関係にあった時期でさえ、人気絶頂の音楽界の帝王にもこの演奏会だけは任せなかった、という一種の心意気のようなものが、またひとつの魅力でもあろうか。

この「ニューイヤール・コンサート」を日本に移せば、さしずめ歌舞伎の顔見世だという意見もあるが、神戸では五、六年前から数年続けて「労音」が「クリスマス・ポップス・コンサート」というのをやったことがある。ふだんはしかつめらしくブラームスやブルックナーと格闘しているシンフォニー・オーケストラにジャズのフル・バンドや、ピリリと鋭い味のコンボを加え、更に本格的なジャズ歌手や若手のポピュラー歌手にも加わってもらい、全く新しい編曲でプログラムを作るといっていい。しかも内容は聞きなれたポピュラー名曲の数々を密度の高い演奏で、ということとで、いわゆるポピュラー・ファンにも、クラシック・ファンにも好評を続けた。何かというと理屈をつけて、「教養のために」音楽をききたがる日本人の悪習が、案外こんなところから、心から楽しむ、という風に変れるかも……、と期待していたのに、なぜか中絶しているのは本当に惜しい。

「クリスマス・ポップス・コンサート」と全く気負わずに、しかもずばりと名付けたところも、いかにもスマートで洒落れていて、しかも少々ドンヨクな神戸らしくて憎い。もはや名物になった「第九」と共に、この豪華なクリスマスのための再開を望むや切である。

（指揮者）

●インタビュー／ブラジルから帰ってきた津高和一氏にきく

ブラジルは私の性分に合ってるんです

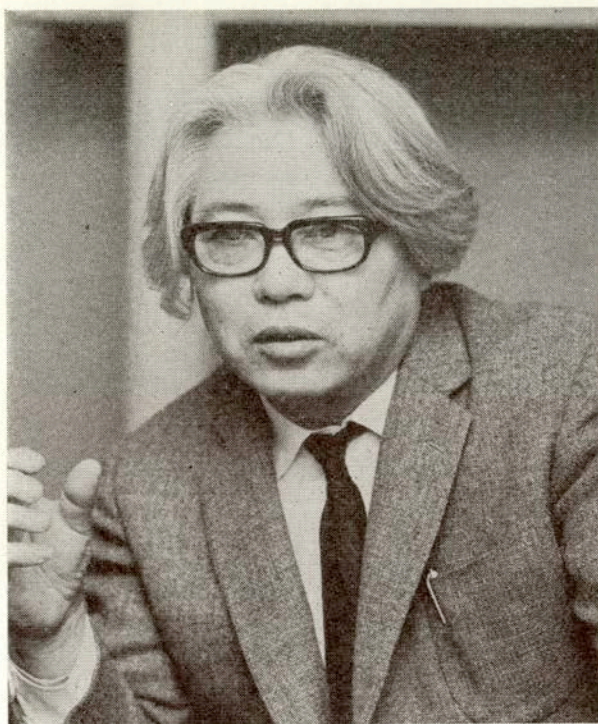
★今度はどういうお仕事で行かれたのですか？

「サンパウロ総合大学の招待なんです。この大学の附属美術館で展覧会を行ったり「日本の現代美術」という題で講演を行いました。個展の方は六月にリオデジャネイロで、七月にサンパウロの方でそれぞれ開き、講演は八月のはじめに「人間と物質」をテーマにして、やりました。今度ブラジルに行きましたのは二回目で、十一年ぶりなんです。五月下旬にこちらを出発しまして八月に帰ってきましたから、約三ヶ月間ですね。主にリオデジ

ヤネイロとサンパウロにいました。日系の二世に知合いが多く、ブラジルの作家たちも皆私をよく憶えていてくれましてうれしかったですね。」

★むこうにもいろんな美術館はあるのですか？

「サンパウロには、近代美術館と現代美術館の二つの立派な美術館があり、リオデジャネイロにも近代美術館があります。ブラジルの美術界はほとんどヨーロッパ的思考の系譜です。日系作家のウエイトはマナブ・マベ氏を頂点に台頭しはじめています。だがポルトガル人たちがブラジルに移住してすでに四百年に



ブラジルを語る津高和一氏

もなりますし、イタリイ人その他のヨーロッパ系移民の影響がいろんな面で強くでています。日本人は最初農業移民として行き近々百年未満の歴史です。芸術などの分野ではどうもまだ弱いようです。むこうでの美術文化に対する受入れ体制は日本よりずっと進んでいます。残念ながら日系人のコレクターはほとんどいないようです。文化に関心をもつ機会が少なかったのかもしれない。経済力はあるのですが文化の面ではまだもう一つといった所です。それとブラジル人の生活意識が東洋よりも西洋に近いせいなんでしょうか、彼らは日本画壇よりも欧米に目をむけているようです。マナブ・マベ氏

が最近個展をやりましたが、ブラジルの人が日本にきて個展を開くというような事は少ないですね。これからはもっともっと日本とブラジルとの文化交流を進めていかねばならないと思っています。日系が七十万もいるのですから。」

★先生の絵を東洋的なものとしてみていますか？

「私の抽象絵画はいわゆる「東洋的」なものとして感じられても、抽象絵画には「東洋的」とか「西洋的」とかいった区別はありませんので、あまりそういった特別な目ではみられません。」

★十一年前と比較されて抽象絵画と具象絵画の比はどうでしたか。

「同等の受けとめかたですね。彼らは自我意識が強く、個性的です。自分の信じるものを徹底的に追求していくんです。ブラジルの画家はほとんどフリーで派閥がなく、サンパウロビエンナーレで認められるのが登竜門のようになっていきます。日本のように徒党を組んだり、權威にたよってたりはしません。しかし最近の日本の美術団体も団体個有の特色がなくなり、随性で動いているという感が強くなってきた。日本ではパターン意識が強く、附和雷動の流行の先走り強い。ブラジル人はその様な揺れが少くしつかりと自分のペースで歩んでいる」

★先生にとってブラジルは生活しやすいですか？

「ええ、生活しやすいですね。苦勞していても日本のように皆があくせくしている感じがなく、落着いている。このスローテンポにいらしてしまふ日本人旅行者もいるようですが、私には丁度いい。隣がカラーテレビを買ったからせひうちにも、というような事もないしどんな格好をしていても全然気にならない。自分のペースで生活できるというか、皆が背のびをしないから苦しくないんです。それに皆陽気で楽天的です。国民の大半が移住者であり、寄合ひ所帯のようなもので人種差別もなく、人種意識も少ないようです。夜の食事が遅く遅くまでレストランで飲んだり食べたりして楽しんでい

ます。私にはブラジルが性に合うんでしょうね。今までも欧米のいろんな所にいきましたが、やはりブラジルが一番いいようです。背後に「自然」の力を強力に感じますし、いろんな制約がないので思いきり自分の力をのばせます。食べ物にしても何でも豊富にありますし、特に肉があつさりしておいしい。氣候がいいせいか皆おどろく程よくたべる。シュラスコ（焼肉）が代表的なのなんです。自分で味つけて食べるんです。それから「フェジョワード」、日本でいえば土鍋のようなものにブタ肉のいろんなものと黒豆を入れて煮る料理ですがこれがとってもおいしい。それに彼らはピングというメキシコのテキーラや日本の焼酒のようなのをよく飲む」

★有名なリオのカニバルはごらんになりましたか？

「ええ、それは以前の時にみました。非常に開放的な楽しいお祭りでした。カニバルと共に国技のフットボール（サッカー）にも大変な熱のいれようです。勝てばものすごい騒ぎになるんです。試合が行なわれるグラウンドが又とても広く、反対側がかすんで見えないくらいです。観客は二、三十万は入るでしょうね。カニバルやサッカーの期間中は花火をあげて街中が大変な騒ぎになるんですが、こうやって皆が一つの事に熱中し、一つの事に市民全部が参加するという事を通して市民の間に一つの連帯感というものが生まれるんですね。日頃バラバラになっている市民がこのカニバルを通じて一つに結びつけられるというかたちです。今年はメキシコでサッカーのワールドシリーズがあり、ブラジルはそこで優勝しました。ペレ選手は国家の英雄であり国民のアイドルです。」

私の場合三カ月の滞在で、ブラジルの絵画から影響はうけませんが、ブラジルの広大な自然から刺激の影響の方が大きいと思います。広茫とした自然に接しているといろいろ考えさせられてしまいますよ。来年も八月、九月にリオデジャネイロとサンパウロで個展を約束していますのでブラジルに行く予定にしています。」



MERRY CHRISTMAS

* クリスマスケーキのご予約はお早めに



北 欧 の 銘 菓 ユーハイム・コンフェクト

■ 本 社・工 場 神戸市灘合区新内町1 (市立美術館東隣) TEL 22-1164・9865
 ■ 三宮センター店 神戸三宮センター街 (洋菓子・喫茶・レストラン) TEL 33-2421・4314
 ■ さんちか店 神戸三宮地下街スイーツタウン TEL 33-3358

クリスマスのプレゼントは
カメヤで



おもちゃの カメヤ

三宮方面でのお買物は.....
 さんちか店 ファミリータウン ☎ 4045
 三 宮 店 センター街大洋劇場東隣 ☎ 4969
 元町方面でのお買物は.....
 元 町 店 元 町 通 3 丁 目 山 側 ☎ 0090
 パンプウ店 元町通1丁目不二家前 ☎ 0768

●ファッション特集① 座談会／宮崎神戸市長を囲んで

日本に先がけるファッション産業を

宮崎 辰雄（神戸市長）

中西 勝（洋画家・二紀会）

福 富 芳 美（神戸ドレスメーカー女学院院長）

牛 尾 吉 朗（ウシオ工業社長）

編集部 今日とは今年の締めくくりといたしまして、神戸のファッション性及びファッション文化の特徴、さらにどうすればファッション性ある街づくりが出来るかということについて話合っていたきたいと思います。

★日本のファッション頭脳を神戸に

市長 ファッションというものは昔から神戸が先端を切っていましたね。昔は欧米やその他の国々の人達は神戸港から入ってきましたし、戦前の特急「つばめ」などは神戸港から出ていたのですよ。だから神戸は世界人の交流の門戸だった。そういう所から神戸にファッションはやってきたんですね。しかし人が飛行機で行き来するようになり、また情報や交通の手段が次第に発達するにつれて神戸が昔程流行の先端を行くという程にはならなくなりましたが、最近又神戸から日本全国へ伝播しているようなものがあるんじゃないですか。それから今後は神戸が工業で立っているという姿はなくなっていくんじゃないかと思えます。立地条件から見て神戸を文化で立っていく都市にしたいと思っています。

福富 終戦後は流行といえば外国から入るものと相場がきまっていたんですが、今はクリエイトする段階に来ました。そこで今まで神戸に育っている伝統ある感覚をいかして、日本のファッション頭脳は神戸——、したがって

ファッションは神戸から「生れる」ということになりましたね。

市長 「生まれる」という点ですが、制度でも何でも神戸が先鞭をつけたことが非常に多いですよ。灘神戸生協やスーパー「ダイエー」もそうですが、神戸で生まれて地方へどんどん伝達・拡大している形ですね。お菓子でもそうじゃないですか。洋菓子やパンなど。こういうことを考えると神戸というのは先端を歩きうる能力があるんじゃないかと思えますね。

牛尾 神戸の町は人間が住むのによいようにできていますね。山があり海があり、南を向いているこの街は文化というものを中心に考えられる町です。神戸というのは、街自体がファッションに合っているんですね。私の会社も今、ヨーロッパのトリンプ、ゴールズザック等と提携しているのですが、毎年、四半期毎に翌年のファッション界における形態、色彩をコンピュータによって検討し、情報の交換を行っているわけです。それは、下着から服飾に至るまで、あらゆる部門にわたっています。それを基盤にしてカルダン、ジバンシー、サンローラン等の協力をも要請し、そこで翌年の流行が決まって行くわけです。そういった意味でも情報センターの中心を神戸にもってきてほしいものです。客船の出入りが多く、新国際空港ができれば、ミラノ、パリから神戸へ直接ファッションをもってこることができまし、こういった



宮崎市長

いろいろな事を考えますと市自体が神戸のファッションというものにテコ入れを願いたいものです。

福富 今の日本にはいろいろなものを着る人はいますがそれを本当に着こなせる人は神戸にいますね。なぜっていいますとこういうことは一朝一夕には身につかないからです。たとえば日本人がなかなか洋服がうまく着こなせないのは洋服を着ていた歴史がないからで、ヨーロッパ人はずっと何世紀もの間洋服を着ているんです。日本の中では神戸に同じことがいえます。神戸はまず条件がいい。外人がたくさんいる、といってもいるだけではダメでやはり永いこと住みついてそこで生活している外人

はファッション性のあるいわゆるセンスの高いものをつくっています。そういうことを考えますとまったくファッションを生み出す頭脳センター、いわゆる「ファッション情報センター」というものをつくって神戸を売り出すべきだと思いますね。

★神戸は工業都市から文化都市へ

牛尾 この「頭脳センター」においては、パリやミラノの型紙が日本で売れるように、日本の型紙が海外へ出せるといった所までもっていきたいですね。外国では色の感覚が違ふんです。デザインはいいけど色が悪い、というのがある。ですから同じファッション

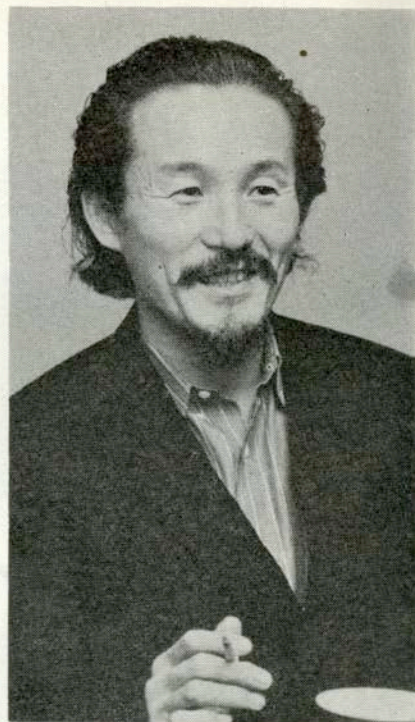
というのには神戸が一番多かったようです。そしてその人達が神戸に本当の「日常の洋服」というものを植えたわけですね。神戸の女の人は自分で意識していなくてもちゃんとファッションのいいとか悪いとかを見分ける力と自信をもっています。そこでこれからは、買って、着ることは東京・大阪の方が早くて多いでしょうが、創りだすのは神戸です。セーターにしてもファッション性のあるセーターを創りだしていますね。

既製服でも、ブラウスは特に神戸でつくっています。そういうことを考えますとまったくファッションを生み出す頭脳センター、いわゆる「ファッション情報センター」というものをつくって神戸を売り出すべきだと思いますね。

福富芳美さん



ョンを海外へもっていつてもそれが合う国と合わない国があるんです。だからこれからのファッション界はそこまで考えてほしいものです。イエロー人種に合うのはこれだ、黒人にはこれだ、白人にはこれだ、という所まで考えていかなければいけないと思います。そういうのが我々経済人として働きたいのある仕事にな



中西勝氏

るわけです。

福富 外国へ行く前と行ってからとでは色を見る感覚が変わりますね。やはり世界的な目で色を見られるようになります。形とか材質とかいいですけど先行するのは色です。日本人はどうも色がまだよくないと思います。

牛尾 市長は神戸の色をつくられたんじゃないんですか
市長 いや、緑が好きなのですから選挙の時にもシンボル色につかったんです。市の旗も緑です。それから歩道橋もすべて緑にしようかと思ってるんです。

福富 色を市長さんが考える、というのが「神戸」ですね。神戸は何といっても色のいい街なんです。色に関連

して、センスのいい物の考え方を生み出す街だと思っています。又地形もいいですね。他の大都市の真似られないことは、神戸はどんな洋服でも着られる街です。たとえば大阪の真中でリゾートウェアは着られませんが神戸では着ても何ともありません。「あの人は海に行っていたのかしら。それとも山からおりてきたところかしら。」といった風にうまく地

形にとけこむんです。そういう意味で非常に明るく楽しい、ファッションを考えたり着こなすのにふさわしい街です。それから神戸にあるほんの小さな店にでも京都や大阪からわざわざ買いにくる人があるんです。どうしてかと申しますと、神戸の店にはいいセンスで選択したものを並べていますのでその中からどれを買ってもすばらしいものが買えるわけです。ですから、持ってくるセンスがいいから神戸でものを買えばいい、というふうに私は解釈しています。

牛尾 私ので今度「ゴールドザック」と書いたファンデーション用のパーツを百貨店その他で一斉に売り出す

つもりなんです。おもしろいことに日本語で「ウシオ工業」と書いたら売れないのに「ゴールドザック」と書きますとパーツと売れるんです。

それから百貨店でゴムヒモの巻を三十メートル百円で売ってるわけですが、ゴールドザックへ行きますと三メートル百円できれいなケースに入れて売っています。所が三メートル百円のものが売れて三十メートル百円のものが売れないんです。これが日本人の感覚なんですね。商品でもセンスのいい形で売ると買う時代に



牛尾吉朗氏

なってきたんです。戦後二十五年で日本人の感覚もだいぶ変わりましたね。

市長 価値判断が違ってきたんですよ。先程も申しましたように神戸は工業都市から文化都市へと変わりつつあります。昔は工場誘致というのが至上命令だったので、今ではもうそんな考えは時代遅れですね。

牛尾 ですから今ここで神戸のファッション産業がはっきりとした形でとりあげられるのはいいタイミングですね。中西先生は四年程海外に出られていて、ファッションというものをどのように感じてこられましたか。

中西 何しろ旅が旅だったもので余りハイクラスの所はまわらなかつたんです。ニューヨークならヒッピーのたまり場とか、ロンドンなどでもヒッピーの集まる骨董品屋とかに行きました。そういう所で感じた事は形が先でそしてそこに雰囲気が出てきたのか、あるいはファイトをもった人間がいるのでそういう形がでてくるのかよくわかりませんが、ヒッピーなどには大変個性をもった者が多いんです。日本でも個性をもった美術学生が横行した時代がありました。私が日本を出る前のモダンな人々はヨーロッパナイズされただけで、その個性というものになかったように思うんです。ところが欧米にいてみるといわゆる「ヒッピースタイル」という個性をもった者が非常に多いのに感心しました。それからもう一つ感心したのは、ロンドンへ行きましたらある一角にオペラだとか芝居関係に使うような古着の衣裳ばかりを売っている所がありまして、そこにはいろんな服装をした若者がいるんですね。そういった所に超ミニスカートををはいた上品なお嬢さんが、上品なお母さんといつしよに見物にきていらつしやるんです。そういうのをみますと、何か非常に自由な、むしろメキシコとかモロッコにいて感じたあの湧きあがるような喜びを感じましたね。話が変わりますが私はずっと以前からこうして髭をはやしているのですが、神戸では東京や大阪ほどジロジロとみられることはありませんでした。それだけ神戸は

自由で個性があり、幅のある可能性をもった街だと思いますね。そういう意味で神戸の人にもっと意欲的なものがあつた方がいいのか、あるいは形があるのにそういうものが出てこないのか、そのバランスの問題を感じます。老いも若きももっとバイタリテイがあつていいですね。

★ファッション性ある街づくりを

牛尾 これだけ自由な街なのにどうして神戸には文化人サークルといったものが育たないのでしょうか。

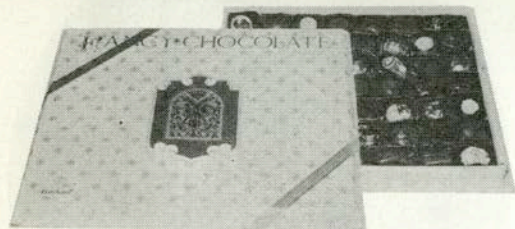
福富 サークルはたくさんあるんでしょうがまとまりませんね。

市長 それは、現在の社会は商業主義ですから集積の利益というものが働いており、何でも東京・大阪に集中するんですね。しかしこれももう限界効用に達するでしょうから、そうすればファッションならファッションでも地方へ流出するようになりますからその時神戸がこれを受け入れる能力をもっていれば又もどってきますよ。情報・交通の手段が発達すれば何も東京に住む必要はなくなってきました。そうなれば日本の頭脳が神戸に住むようになるといふことだってありうると思います。そこで私達は文化の高い街づくりをめざす必要があるわけです。たとえばポートアイランドの隣にニュー・コーベアイランドを造る予定なんです。私はその中に山や川も全部造るつもりなんです。といひますのはそこが輸送の中心になるだけでなく、同時に頭脳が住みつけるような場所にもしたいのです。神戸の人の頭脳、伝統、習慣といったものを考えてみますと最初にいいましたように日本でも初めてやったものが非常に多いんです。市がやっているものでもそういうものがたくさんあります。

牛尾 これからの神戸におけるファッション産業も、日本に先がけていらないものをつくっていきたいですね。

Merry
Christmas

ファンシーチョコレート



ひとつぶひとつぶが
個性豊かなメロディーの持主
クリスマスプレゼントに
ことしもぜひお選び下さい。

チョコレート * キャンデー
ゴンチャロフ

直売店 さんちか・スイーツタウン TEL 39-3563
直売店 神戸商工貿易センタービル TEL 25-0237



* ランジェリー
* ナイトウェア
* ブラウス
* ワンピース
* ホームウェア
* セーター

婦人服飾とおしゃれ洋品の店

(Gya) **スギヤ**

本店 神戸市生田区三宮町3-15 TEL 078(33)3436
六甲店 神戸阪急六甲駅構内ファミリーストア TEL 078(87)2731
東京店 東京都豊島区南池袋バルコ地下1階 TEL 03(987)0567
大阪店 大阪梅田阪急三番街地下1階 TEL 06(372)4877



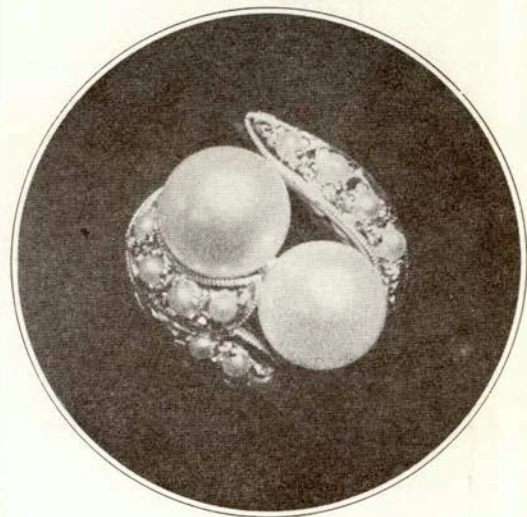
神戸にそだって 70年

 **風月堂**

元町3丁目 TEL ☎ 2412~5
 さんちカスイーツタウン TEL ☎ 3455

Kitamura Pearls

キタムラパールの輝きは
 愛する人の優しさです



WGK14 PEARL RING

世界の人々に愛される北村パール

北村真珠店

元町通2丁目60

TEL. 33-0072